

基礎から学ぶ食支援～訪問療法士の評価、関わり方～

開催月日：2017年08月26日(土)

時間：9:50～16:30

会場：大阪市立 東淀川区民会館 「会議室1」

定員：80名

内容：

在宅における嚥下障害を呈した低栄養の利用者や嚥下障害以外にも認知機能の低下により摂食に問題があり、低栄養の利用者が増えてきています。そこで、在宅における、利用者の栄養管理を行う医師や看護師、管理栄養士のサポートするリハビリ職種が必要であると考えます。リハビリ職種は活動や参加に目を向けながら、利用者の生活全般に対してのアセスメントやアプローチを行う中で、リハビリ栄養に対する知識の習得や栄養管理の基礎知識を兼ね備えたセラピストの育成が必要です。そこで、基礎から食事支援を学び、低栄養に対するリハビリの関わり方や評価の視点を習得できる場としたいと考えています。

【こんな所困ってませんか？】

低栄養の利用者様に対してどの様に関わったらよいか、評価をしたら良いか、困る事をありませんか？
低栄養の方に今までのリハビリ内容でよいのか？

【今回の研修では】

在宅療養者の栄養状態、食物摂取状況の現状などを踏まえながら、栄養管理の根幹となる栄養評価や視点や訪問のセラピストが知っておくべき知識を管理栄養士の先生に御講演いただきます。リハビリ三職種の先生には、病院から在宅、施設等での関わり方、サルコペニアに対する運動学的視点で評価や関わり、認知機能の低下による食事環境の変化に伴う関わる方、在宅での食支援や嚥下評価から食形態、摂取方法の評価についてなど講演を頂き、三職種の先生とのシンポジウムを行います。

「在宅療養者の栄養評価～効果的な食支援のために」

講師：管理栄養士 辻 多重子（大阪市立大学大学院生活科学研究科）

「外来・在宅でフレイル・サルコペニアに向き合う～筋肉から診る栄養管理～」

講師：理学療法士 金谷 里砂（適寿リハビリテーション病院）

「ICFに基づいた栄養摂取評価と介入～回復期・生活期の作業療法士の視点～」

講師：作業療法士 齋藤 嘉子（介護老人保健施設茶山のさと）

「在宅での食支援～評価と対応～」

講師：言語聴覚士 藤岡誠二

シンポジウム 「食支援に対する関わりと働きかけ」

シンポジスト：金谷 里砂・齋藤 嘉子・藤岡 誠二

◆受付期間◆

2017年5月22日(月)12:00～7月31日(月)12:00まで

本協会 会員 6,000円(参加費5,556円+消費税444円)

非会員 9,000円(参加費8,334円+消費税666円)